

史跡鏡山城跡案内図



鏡山城跡遠景 (南から)

■鏡山城跡の遺構

鏡山城跡の遺構は、標高335mの山頂を中心に東西南北約300m四方の範囲に展開しています。

麓近くまで延びる堅堀を伴った堀切を東西に配し、その城内側には高大な切岸(城壁に相当する崖)を造ります。

最高所の1郭は、「御殿場」と通称され、「中のダバ」と呼ばれている東側の2郭とともに主郭を構成しています。主郭の周囲は13～23mの高さの切岸で囲まれ極めて固い守りとなっています。

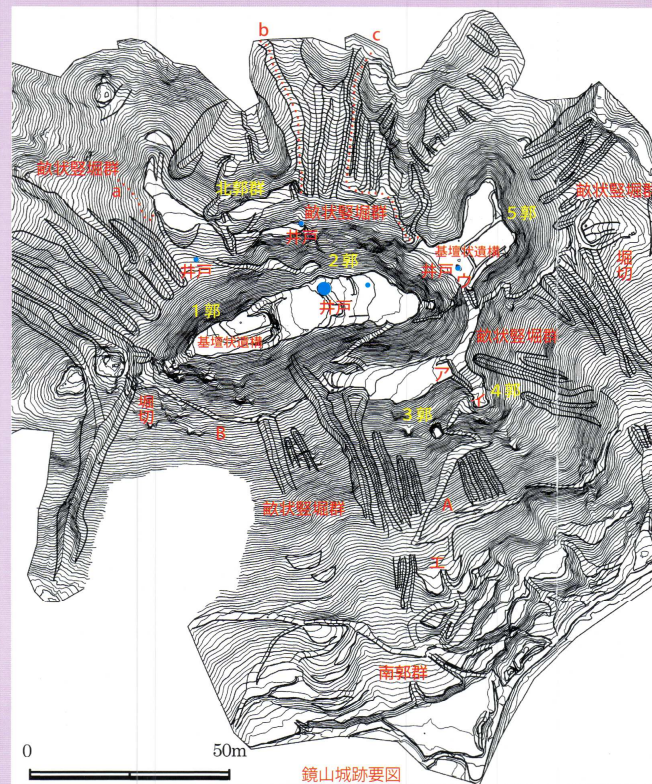
1郭の北東部には礎石を伴う東西約15m、南北約8mの



畝状堅堀群 (3郭南側)

長方形の基壇状遺構があり、象徴的な建築物があったことが推測されます。

2郭でも数棟の礎石建物跡や基壇状遺構が確認され、多くの建物が立ち並んでいたと考えられます。3郭は「馬のダバ」と呼ばれ、2郭の南、約18m下に位置します。西側を大堅堀で区切り、堅堀に面して土塁を設けています。土塁は北端のみ石積みで補強されており、西側尾根筋への通路(B)と結ぶ橋が架かっていたと思われます。土塁から東側の塁線は屏風折れに造られ、「横矢」と呼ばれる側面防衛の工夫が明瞭です。3郭の東端には虎口(A)が開口し、



鏡山城跡要図

2郭を守る前衛の役割を果たしています。3郭の東には4郭・5郭に通じる幅の広い通路があり、4郭と組み合わせられて複雑な虎口(I)を形成しています。その位置と構造から大手門の跡と推測される4郭は、石垣と土塁で固められており、崩壊した石段を見ることができます。

5郭は「下のダバ」と呼ばれ、2郭の東、約13m下に位置しています。2郭とは直接連絡しておらず、2郭に行くためには、南側の虎口(ウ)から3郭を経由する必要があります。

5郭は南端に土塁で形作った虎口(ウ)を持ち、虎口前には現在も石段がよく残っています。

虎口を入ると整った石積みの井戸が見られます。その東には東西約17m、南北約8mの礎石を伴う基壇状遺構があり、規模の大きな建物があったことが窺えます。



4郭の石垣と石段 (西から)



5郭虎口と石段 (南から)



5郭から2郭を見る

北郭群は1郭の北に延びる尾根上の2段の郭と2郭の北に造られた2段の郭の二つの郭群で構成され、それぞれから北麓と連絡する通路(a・b)が延びています。北麓から主郭へは北郭群を経ないといけないことから、主郭の北の守りということが出来ます。郭群の面積は小規模ですが、2基の石組井戸が残っています。

以上が鏡山城の主要部といえます。主要部の周囲に目を転じると、東西の尾根筋を大規模な切岸と堀切・堅堀で遮断し、それを基点に南北両斜面を埋め尽くすように畝状堅堀群を廻らせています。特に3郭の南側のものは大手道(A)からよく見え圧巻です。また、2郭の北側の堅堀群は一部が登城路(C)となっており先駆的な例といえます。

主要部から堅堀群を隔てた南側には南郭群があります。郭群の最高所には虎口(エ)を備えた郭を置き、そこから南麓まで数多くの小郭を配置しています。南端には郭群で最大の規模を持つ郭があり、東側に土塁を備えています。

南郭群は、主要部の東西を区切る大堀切から南麓まで延びる堅堀に囲まれた区画の中に含まれており、主要部を内郭とする南郭群が外郭に相当するといえます。一方、主要部からやや離れた東西北の三方にはそれぞれ簡素な出丸が造られています。1郭の西約200mに位置する「藤の丸」は最も規模の大きな出丸で、西と南に堀切を備えています。5郭から北に延びる尾根に築かれた出丸は「東出丸」と呼ばれ、遊歩道で一部破壊されていますが、端部を石積みで固めています。主要部から東に延びる尾根上には、主要部側に向けて小規模な土塁と堀切を備えた区画があります。



1郭基壇状遺構と2郭 (1郭から)